

Title	編者序文
Sub Title	Preface
Author	福岡, 正夫 丸山, 徹
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1982
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.75, No.1 (1982. 2) ,p.1- 2
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	小特集：フランシス・Y・エッジワース：『数理精神科学』公刊百年を記念して
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19820201-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

小特集

フランシス・Y・エッジワース

—『数理精神科学』公刊百年を記念して—

編者序文

本年(1981年)はフランシス・イシドロ・エッジワース (Francis Ysidro Edgeworth; 1845-1926) の主著『数理精神科学』 (*Mathematical Psychics*) が公刊されてから、ちょうど百年目の年にあたる。以来、近代経済学の歴史のなかでエッジワースが語られてきたのは、主として次のふたつの視点からではなかったかと思われる。その第一は、何よりもまず、限界革命の強力な推進者としての彼の役割であり、限界効用理論・限界生産力理論の継承発展の過程において彼が果たした独自の貢献に意義を認めようとするものである。また第二は、きわめて多数の、無視しうるほど小さな主体から成る経済では、ワルラス配分の集合とコアとが一致するという、いわゆる「エッジワースの極限定理」を提唱し、後年 G. ドブリュー、H. スカーフ、R. オーマンらの手によって飛躍的に発展せしめられた一連の研究に嚆矢を射た点を高く評価しようとするものである。

これらは学史上ほとんど常識となっている事実であるにもかかわらず、彼の難解晦渋な文体、高踏的・学術的な学風は容易に人を近づけず、一部の専門家の場合を除けば、実際に彼の著作が繙かれる機会は甚だ少なかったのではなからうか。また『数理精神科学』以外の著書・論文に盛られた彼の多彩な才能が、十分に評価され、現代に生かされることも従来はきわめて稀れであったと申さねばなるまい。このような不幸な事情に鑑みるとき、ここで改めて現代の観点から、エッジワースの業績に多面的かつ総合的な評価を試みることに少なからざる意義が伴うということが許されよう。われわれが主著公刊後百年を記念して、本小特集を編む所以もこの点に存するのである。

以下に収録した論文において、福岡正夫は、エッジワースの為人と学風、そして彼の全業績の総合的な展望・評価を意図し、また根岸隆は、公正分配論という特定の視点から主著における彼の貢献を取り上げてその意義を考察している。最後に養谷千鳳彦の論文は、これまで不当に等閑視されてきた、統計学上のエッジワースの業績を詳細に検討評価しようとする試みである。

今回の企画が、些かなりとも学界に裨益するところがあるとすれば、それは編者の望外の幸せである。

昭和56年12月

福岡正夫，丸山 徹